



Title	依頼会話における談話構造に関する日越対照研究 : 依頼内容の負担度に着目して
Author(s)	グエン, ティ ニュー イー
Citation	日本語・日本文化研究. 2014, 24, p. 93-103
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51021
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

依頼会話における談話構造に関する日越対照研究 —依頼内容の負担度に着目して—

グエン ティ ニュー イー

1. はじめに

近年、日本語教育の傾向としてコミュニケーション能力を高める教授法が注目を集めている。従来、ベトナムに於ける日本語教育では文型を中心とする教育を行ってきたが、教室で取り扱われる文型をいくら練習して使えるようになって、実際の会話場面では、それだけではコミュニケーションがうまくできないケースが少なくない。実際の日本語学習者と日本語母語話者がコミュニケーションする際、どのようなストラテジーを利用すれば相手を自分の会話に引き込めるかなど、日本語母語話者である相手に好ましい会話の展開を、日本語学習者に予め指導すべきだと考える。そこで、本研究では、ベトナム語母語話者への日本語教育に応用するための基礎研究として、依頼会話の日本語・ベトナム語対照研究を行った。

2. 先行研究

近年、依頼を談話構造の観点から見る対照研究も多くなされているが、日本語と中国語の研究が大半で、次に韓国語、タイ語、インドネシア語、フランス語、ビルマ語などがある。（三井 1997、張 2002、徐 2006、2007、猪崎 2000）。

張（2002）では、中国語と日本語の会話を対照しながら、日本語母語話者と中国人日本語学習者の「依頼」会話の中の社会・文化的な相違が原因と見られる逸脱と不適切さについて考察を行っている。研究対象となる会話データは「5 千円を借りる」「自分の代わりにアルバイトに行く」という 2 つの場面に沿ってロールプレイの研究方法で収集された。その結果として、張は、日本語母語話者の依頼談話展開パターンが「情報提供先行発話」→「依頼」であるのに対して、中国語では「情報要求先行発話」→「依頼」というパターンが好ましいと述べている。また、「予告」の発話は両言語において現れやすい場面とそうではない場面があるということである。

猪崎（2000）は、日本語母語話者とフランス人日本語学習者との接触場面を対照し、「依頼」談話における展開メカニズムを分析している。猪崎の研究では、「車を借りる依頼」の場面に沿って日本語母語話者とフランス語母語話者による 3 種類の依頼会話のロールプレイが行われた。分析の結果、日本語の依頼は〈依頼の予告〉により、これから話す〈依頼〉が相手に負担をかけるということが明示されるのに対して、フランス語の依頼は依頼を暗示的に示すことによって依頼の発話行為を避けようとする傾向があることが明らかにされている。猪崎は、この展開の相違がストラテジーの選択にも影響を与え、日本語母語話者は「メタ言語発話」により依頼を予告し、その背景事情を「～んだけど」により説明することで被依頼者の理解を

期待し、最後に依頼を受諾してくれることを被依頼者の好意に訴えるが、フランス人の場合は先行発話での「間接的発話」により被依頼者が依頼を推測してその申し出をする戦略が好まれると指摘している。しかし、猪崎では、会話の展開パターンの抽出にとどまり、依頼者と被依頼者がどのように働きかけ合い、依頼の会話展開パターンを作りあげているのかについては触れられていない。

3. 研究目的

本研究の目的として次の2点を挙げる。

- ① ベトナム語と日本語の依頼会話における談話構造を分析し、両言語を対照することによってその類似点・相違点を明らかにすること。特に、依頼場面の負担度によって会話がどのように展開されているかを観察する中で、日本語母語話者・ベトナム語母語話者それぞれにとっての好ましい依頼の戦略を明らかにすること。その談話構造の相違点の原因を探ることによって社会と文化による相違を明らかにすること。
- ② 文化の違いに起因するコミュニケーション上の摩擦、不愉快さを避けられるようにするために、日本語教育における依頼の言語行動の指導方法への提案を示すこと。

4. 分析対象

4.1. 場面設定

日本語母語話者・ベトナム語母語話者それぞれが親しい関係ではどのような場面で依頼するかを確認した上で、現実在即した場面を設定したいと考え、予備調査として日本語母語話者、ベトナム語母語話者の「ものを借りる・貸す」に関する意識調査を行った。予備調査は、質問紙による調査とフォローアップインタビューの二種類を行った。予備調査の結果に基づいて、この研究では3場面を設定したが、本稿では、そのうちの2場面（表1）について論じる。

表1 場面設定

	上下関係	親疎関係	依頼内容の負担度	場面
場面1	同	親	軽い	親しい友達との本・小説の貸し借り
場面2	同	親	重い	親しい同僚とのビデオカメラの貸し借り

この二つの場面を設定したのは以下の理由からである。

- ① 場面1及び場面2は日常生活の中で親しい間柄に起こりやすいことから、設定した。
- ② 依頼の言語行動は人間関係、負担の重さなど各種の要素によって左右されるが、自然会話のデータでは、これらの要素を全て統制することが不可能であるため、ここでは特に被依頼者に対する負担度に着目した。

4.2. データ収集方法

本稿で扱う分析データは、ロールプレイの手法を用いて収集した。協力者は、20代後半から

40代後半までの日本語母語話者及びベトナム語母語話者、それぞれ男性4人、女性6人である。会話参加者の性別が会話に影響を与える可能性が高いことから、今回のロールプレイはすべて同性同士で行った。調査方法としては、各言語の母語話者5ペアに、依頼内容の負担度が軽い（場面1：小説の貸し借り）、重い（場面2：ビデオカメラの貸し借り）の二つの場面における「依頼」のロールプレイをしてもらい、録音した会話を文字化したものを分析対象とした。

4.3. 分析方法

分析にあたっては、本研究の会話データでは、両言語とも、いずれの場面においても、ほぼすべての会話の談話構造を、《雑談部》と《依頼部》の二つに分けることができた。

《雑談部》とは依頼を行う目的を持って話題を切り出すところから依頼対象となる事柄に関する情報や評価をお互いに交わすやりとりを指す。《依頼部》は、依頼を行う理由を訴え、依頼を行い、依頼を遂行するのに必要な事柄を依頼者と被依頼者が相談しながら決定し依頼会話を終結するまでのやりとりである。《依頼部》は、さらに、依頼理由を訴える〈依頼理由〉、依頼を明言したところから承諾するかどうかを決め、【負担軽減】【感謝表明】などを含む部分である〈依頼遂行〉、依頼会話を終了させるための〈依頼相談〉に下位区分した。日本語とベトナム語における「依頼」の談話構造とその特徴を分析した上で、両言語を対照した。

5. 分析結果および考察

《雑談部》では、両言語共に、依頼行動を始めるに先立ち、依頼者は被依頼者を自分の依頼目的へ向かう話に引き込むために、依頼対象あるいは依頼対象をめぐる事柄に関する「雑談」を会話参加者がお互いに交わすようにしむけている。《依頼部》は、両言語共に、いずれの場面においても、〈依頼理由〉〈依頼遂行〉〈依頼相談〉のような流れで依頼会話が展開していた。本稿では、《依頼部》を中心としてそれぞれの特徴を以下で詳しく論じる。

5.1. 〈依頼理由〉

まず、〈依頼理由〉では、両言語とも負担度によって展開パターンが異なっていた。

(1) 負担度の軽い場面

負担度の軽い場面1においては、両言語とも依頼者による【状況説明】あるいは【状況確認要求】という発話で開始されていた。依頼行動を行ってもよいかどうか判断するために、【状況説明】と【状況確認要求】という二種類の発話で、依頼内容に関するお互いの状況をしっかり確認し合うことになる。

【会話例1】 依頼者：JF3 被依頼者：JF4

09 JF3:	=それ：ね：本屋さんですっ↑ごい見て [、 [買うかどうか迷	状況説明
	[ってたやつ [：： 迷 [ってた. . h h ↑え：：, それそうか.	
10 JF4:	[そ： [：	理解
	[h h h [迷うやんな. [h h h	

11 JF3: いいまどこらへん読んでんの? =	状況確認要求
12 JF4: =えっとまだ真ん中ぐらいいかな. なかなか>こう<時間取れへんから [: , ちょっと時間掛けてて: .]	状況確認
13 JF3: [ああ, そうかそうか° そうかそうか° .]	理解

ただし、日本語の依頼会話では、【状況説明】と【状況確認要求】が必ず現れていたがベトナム語では、そのいずれか、あるいは両方が〈依頼理由〉の段階で現れない場合も見られた。

【会話例2】 依頼者: VF1 被依頼者: VF2

17 VF1: Chừ mi đọc <ngang mô rồi?>	どの辺まで読んでんの?	状況確認要求
18 VF2: Mói↑ đọc tới:: đoạn: giữa giữa.	ほぼ真ん中までだ。	状況確認
19 VF1: Hừm.(2.0)	うーん	理解
20 VF1: Ê, khi mô mi đọc xong á? mi cho tau mượn được không?	ねえねえ、読み終わったら貸してくれる?	依頼

会話例2は、VF1の依頼者によって17VF1の【状況確認要求】がなされ、VF2の被依頼者から【状況確認】が得られたことで、〈依頼理由〉が終わり、〈依頼遂行〉の【依頼】に入っている。

(2) 負担度の重い場面

一方、負担度の重い場面2においては、今回のデータでは、日本語依頼会話の〈依頼理由〉の展開パターンとして、①【前置きー受け入れ型】と②【状況説明型】が見られたが、ベトナム語依頼会話の〈依頼理由〉は、①【状況説明型】のパターンのみであった。両言語共に、場面1と同様に〈依頼理由〉の段階で【状況確認要求】と【状況説明】という発話で、被依頼者が依頼を受ける能力があるかどうかを判断していた。

ただし、場面2の《雑談部》で、会話例3のように【所有確認要求ー確認】という連鎖ですでにビデオカメラを雑談の話題としていた場合、依頼者は被依頼者が依頼を受ける能力を持っていると判断できるので、〈依頼理由〉において改めて状況確認をする必要がなくなり、【状況確認要求ー確認】がなくても会話は円滑に進んでいた。

【会話例3】 依頼者: JF3 被依頼者: JF4

03 JF3: JF4 さんって, [] ビデオカメラ持ってたっけ?	所有確認要求
04 JF4: [うん] ビデオカメラは, ↑うん, えっとね, ↑ちょっと古くてもいいの(に)やっ [たら持っているけど, (中略)]	所有確認
12 JF3: h [h h その時に,] 私ビデオカメラ持ってなくて, =	状況説明
13 JF4: [h h h] =う: [:ん.	理解
14 JF3: [で, あのう, まあ, 別にいなくても>いいねんけど, ビデオにとー撮り なさいって先生はいうか[ら, [ちょっと, s 撮ったほうが先生が「勉強になるよ」って言うから, =	状況説明

15 JF4:	[あ, そうなん [や	理解
---------	-------------	----

さらに、場面1より負担度が重いため、唐突に依頼を行うのではなく、「それでね、ちょっとお願いがあるんだけど」といった【前置き】が、日本語依頼会話では出現していた。しかしこれは、ベトナム語依頼会話では現れていなかった。

【会話例4】 依頼者：JF1 被依頼者：JF2

26 JF1: =それでね, ちょっとお願いがあるんだ [ど:,	前置き
27 JF2: [う:ん.] [はい.]	受け入れ
28 JF1: そのビデオカメラ一度貸してほしいなと思って,	依頼
29 JF2: (0.4)あ:, (0.8)まあ,あの, (0.7)そんなに毎日毎日使ってるわけじゃな [いから,]	承諾理由説明
30 JF1: [あ, そ:お?]	理解
31 JF2: =いいよ.	承諾
32 JF1: .hあのね, 実は英会話学校で [:, スピーチコンテストがあるのね.	状況説明

三井(1997)では、日本語の依頼会話を分析し、【前置き】のような「依頼を行う」という言語行動について言及するメタ言語的な発話は、発話者の方向性を示唆するもので、依頼の具体的負担を軽減させることにおいて有効であると指摘しており、本稿もこの立場にたっている。それに対し、ベトナム語母語話者にとっては、特に友人関係の場合に【前置き】を使用して予告をすると、よそよそしさを与えてしまうため、依頼の具体的負担を軽減させることに有効であるどころか、相手に負担を重く感じさせ、距離を置いてしまう可能性が高い。そのため、使用を避ける傾向にあると考えられる。

5.2. 〈依頼遂行〉

〈依頼遂行〉では、負担度を問わず、両言語で様々な展開パターンの相違点が見られた。

5.2.1. 【依頼】を明言した時点から【承諾】あるいは【拒否】が決まるまでの展開

① 負担度の軽い場面1

場面1は、「小説の貸し借り」程度の負担度の非常に軽い依頼であるため、そもそも断るようなことにはなりにくいと考えられる。日本語のデータでは、いずれの会話も【依頼－承諾】の隣接ペアの単純な構造であった。ここで重要なのは、被依頼者の【承諾】の後、依頼者が被依頼者に対し、配慮を表す【負担軽減－受け入れ】が行われることである。

【会話例5】 依頼者：JF6 被依頼者：JF5

29 JF6: =読み終わったら, (.) [貸してくれない?	依頼
30 JF5: [うん. (.)あ, いいよいい [よ.	承諾
31 JF6: [あ, 本当に?	負担軽減
32 JF5: うんうん. [あ,	受け入れ
33 JF6: [あ全然急いでな(h)いか(h)ら(h),	負担軽減
34 JF5: うん. [h	受け入れ

35 JF6:	[あ(h)の(h)本当ゆっくり読んでから:]	負担軽減
36 JF5:	あ:あ: [あ: ¥ほ(h)んと(h)に?¥ [オッケー, 分かった. [うん.]	受け入れ

「本当に」「いいですか」のような発話は、言語形式から【確認要求】と理解されやすいが、これらは依頼者が被依頼者の【承諾】に対して被依頼者に気を配ったり、感謝の意を表したりすることで、相手の心的な負担を少しでも軽くするための発話であり、依頼者が被依頼者の【承諾】を疑っているのではない。この【負担軽減】の発話は日本語では重要であり、もし「本当に」のような発話なしに「ありがとう」を使用してしまったら、「相手がその依頼を受けるのが当然である」と考えているように受け取られて、相手の気分を害してしまう恐れがある。

それに対して、ベトナム語では、会話例6のように、負担度の非常に軽い依頼であるからこそ、その依頼に対して【承諾】を暗黙の前提として、冗談のつもりでわざと【拒否】をすることを行ったり、あるいは【保留】したままで依頼の理由を説明するように求めることで、〈依頼相談〉まで会話を進めていき、依頼者に間接的に【承諾】を理解させていた。

【会話例6】 依頼者: VF1 被依頼者: VF2

20 VF1:(2.0)Ê, khi mô mi đọc xong á↑mi cho tau mượn được không?	ねえねえ、読み終わったら貸してくれてもいいのですか。	依頼
21 VF2:Không!	いやだ。	拒否
22 VF1:Vì rã::ng↑rủ↑mi?	何で?	拒否理由説明要求
23 VF2:Hhhhh	〈笑い〉	拒否理由説明
24 VF1:Keo kệt. Tóm.=	ケチだな。	非難
25 =Thì mi↑đọc↑xong đi rồi mi↑cho↑tau↑mượn↑.	読み終わってから貸してくれてもいいのに。	再依頼
26 VF2:Ừ	はい、はい。	承諾

ここの【拒否】は、被依頼者が友達である依頼者をからかって冗談として行っている発話であり、依頼者は「何で?」という拒否理由説明や「ケチだな」という非難を提示している。このような冗談のやりとりは今回の日本語の依頼会話ではまったく見られなかった。

② 負担度の重い場面2

場面2では、〈依頼遂行〉において【依頼】から【承諾】に至るまでの間に【内容詳細要求-説明】【条件緩和要求-条件緩和】の連鎖が挟まれていた。場面2では、場面1より負担度が重いため、その依頼を受けるべきかどうかを確かめようとする【内容詳細要求-説明】、相手の気分を害さないように、お互いに配慮として依頼行為の条件を自ら緩和したり、被依頼者の能力に合うように緩和したりする【条件緩和要求-条件緩和】が使用されていた。

ただし、【条件緩和要求-条件緩和】が現れる会話の中の位置は、両言語で違いがあるようである。日本語の場合は、【依頼】を行って被依頼者がその依頼を受けるかどうかが決まらない時点で現れる。ベトナム語の場合は、その位置だけではなく、被依頼者が【依頼】を拒否し

た時点で、被依頼者の【承諾】を得るための交渉として、【条件緩和】で依頼の負担度を軽くして【再依頼】を行う。

【会話例 7】 依頼者：JM1 被依頼者：JM2

80 JM1:	[ちょっと、スピーチコンテストがさ：、後2週間くらいなんだけど：：：ちょ	依頼
	っと本番まであれをちょっと借りてもいいかな	
81 JM2:	2週間ぐらい。もうすぐ借りたい感じでしょ？	(保留)
		内容詳細要求
82 JM1:	まあ、できるだけ早いほうがいいっちゃいいけど、	内容詳細説明
83 JM2:	そうやんね。	理解
84	その〔 〕 さっきドライバーが撮ってきたじゃん。	保留理由説明
85 JM1:	〔うん〕	理解
86 JM2:	それで、週末は使うかどうか、友達がそのドライバーするんだけど	保留理由説明
	〔：() 〕 わからないから、友達から聞いてみて、もし友達がいらないと言	
	ったら、全然すぐ貸せるわ。	
87 JM1:	〔そうなんだ。〕	理解
88 JM2:	たぶん大体だい - 大丈夫だと思うよ。貸せると思う。一回確認してみてもいい？	条件緩和と要求
89 JM1:	ああ、オッケーオッケー。	条件緩和
90 JM2:	うん。だったらもん。だーそれかある。もうひとつあるかな。いいほうがいい？	条件緩和と要求
	〔どっちでもいい？〕	
91 JM1:	〔いや、まあ、 〕でも別に。	条件緩和
	うつりが、〔見 〕られるだけでいいや。	
92 JM2:	〔うん〕	受け入れ
93 JM1:	それじゃ、そのもう一つのほうが絶対貸せる。	承諾
94 JM2:	あ、本当？	負担軽減

【会話例 8】 依頼者：VF2 被依頼者：VF1

31 VF2:	Buổi sáng, nhưng chiều tau mới trả cho mi được.	午前だけど、返すのは午後です。	内容詳細説明
32 VF1:	Buổi chiều hân::phải đi quay gấp↑. Vì nhóm::	動画作成が急用で、午後に必要。彼女	(拒否)
	của hân chỉ::rảnh::buổi chiều đấy thôi.	のチームがその日しか集まらないって	拒否理由説明
33 VF2:	Tau thì thứ 2, khoảng::9h là::↑xong↑, [quay	私は2番目で、9時ごろに終わるよ。	条件緩和
	xong rồi::tau đưa máy cho hân: được không?	終わったら彼女のところまで持って	
		行ってもいいの？	
34 VF1:	[Rứa hồi này mày kêu mày đi đến chiều mà:	さっきは午後まで貸してほしいって	内容詳細要求
		言ってたのよね。	
35 VF2:	Về mà trả cho mi thì ta đi đến chiều↑mà hân	もし時間があるなら午後に返そうと思	内容詳細要求
	cần gấp rứa thì tau trả buổi sáng↑.	ってたんだけど、急いでいたら午前中に	
		返す。	
36 VF1:	Đề tau hỏi lại nó.	じゃ、もう一度聞いてみる。	保留
37 VF1:	(12.0)	〈沈黙〉	(承諾)

この現象は、異文化間でのコミュニケーションギャップにつながると考えられる。ベトナム語では、被依頼者と親しい関係を持っている場合は、負担が重い依頼の場合、被依頼者に依頼を断われた時には、相手の承諾をもらうために依頼の条件を緩和し、交渉することが一般的である。それに対して、日本語母語話者は相手とどのような関係にあっても、いったん断られたら再度依頼することを避ける傾向にあるようである。

また、【依頼申し出－受け入れ】の連鎖については、日本語では見られなかったが、ベトナム語では負担度が重い場面2でも見られた。これは、依頼者が【状況説明】の段階で自分の困っている状況をできるだけ詳しく相手に伝えて理解してもらうことで、相手から依頼を申し出てくれることを期待するという方法である。

会話例9のように、【依頼申し出】は依頼者が依頼を明言することが苦手であったり、依頼しにくい場面である場合には好ましい依頼会話の展開パターンであるため、【状況説明】を工夫することは依頼を達成する上で重要なやり方であると言える。

【会話例9】 依頼者：VF6 被依頼者：VF5

09 VF6: <i>Chị định quay lại hình thi hùng biện tiếng Anh ấy mà.</i>	英語スピーチコンテストの本番をビデオに撮りたいんだ。	状況説明
10 VF5: <i>Rúa ch↑l↑l↑m↑y em mà quay. Em có dùng t↑i↑m↑.</i>	それじゃ、私のやつを（遠慮なく）使って。めったに使わないから。	依頼申し出
11 VF6: <i>Rúa::cho chị mượn↑hi↑.</i>	それなら、貸してくれる？	依頼
12 VF5: <i>Dạ.</i>	はい.	承諾

一方、被依頼者は相手の【状況説明】の仕方によって相手の苦境の度合いや自分がその手助けをする能力を持っているかどうかを判断し、自分が相手を助けようと思えば、相手の依頼まで待たずに依頼を申し出る方が相手の心理的な負担を軽減でき、相手の面目を保ったまま依頼行為を遂行できると考える。ただし、フォローアップインタビューによると、実際の会話では、依頼者が詳しく苦境を説明したにも関わらず被依頼者から依頼の申し出がなかった場合は、途中で依頼行為をやめてしまうことも少なくない。

5.2.2. 【承諾】や【拒否】がなされた後の展開

ベトナム語では、場面を問わず、〈依頼遂行〉は被依頼者による【承諾】で終了していたが、日本語では、【承諾】がなされた後「ほんとうに？」「いいの？」のような【負担軽減－受け入れ】の連鎖で終了される場合が多かった。この【負担軽減】は被依頼者に対する感謝の気持ちを表し、心的な負担を減らすための発話であり、会話が順調に行われることに役に立つと考えられる。このような発話に加えて、日本語では、いったん【依頼】を行ったら【承諾】はもとより、【拒否】の際にも必ず【感謝】を行う必要がある。

【会話例10】 依頼者：JF5 被依頼者：JF6

38 JF5: =読み終わったら, (.) [貸してくれない？]	依頼
39 JF6: [うん. (.)] あ, いいよいい [よ.]	承諾
40 JF5: [あ, 本当は？]	負担軽減
41 JF6: うんうん. [あ,	受け入れ
42 JF5: [あ全然急いでな(h)いか(h)ら(h),	負担軽減
43 JF6: うん. [h]	受け入れ

44 JF5:	[あ(h)の(h)本当ゆっくり読んでから:]	負担軽減
45 JF6:	あ:あ:[あ:, ¥ほ(h)んと(h)に?¥ [オッケー, 分かった. [うん.]	受け入れ

それに対して、ベトナム語では、【感謝】は、負担度が軽い場面1には現れず、それより負担度が重いビデオカメラや、お金の貸し借りにおいて、“cảm ơn ông trước hi”「予めよろしくお願いします」のように使用されていた。これに対して、被依頼者は“Khách sáo mày.”「そんな遠慮するな」のように会話参加者間の関係を修復することになる。ベトナム語母語話者にとっては、場面1の小説の貸し借りは大変軽い事柄なので、相手に感謝を表明すると、かえって両者の間に距離を置いてしまったり、負担度が重い場面でも、親しい関係で感謝の気持ちを表したいとき、「ありがとう」という発話をしてしまうと、かえってよそよそしく感じられるため、【関係修復】などで回避する。

このような配慮の仕方の違いは、日本語母語話者とベトナム語母語話者のそれぞれの文化的な背景と深く関わっていると考えられる。すなわち、日本語では、【負担軽減】や【感謝】などの被依頼者への配慮は【依頼】を受け入れるか受け入れないかが決まった時点からなされ、どの場面の会話構造においても重きが置かれている。一方、ベトナム語では【依頼申し出】の展開パターンが好まれているため、【状況説明】の仕方を工夫することで相手に依頼するという負担をかけず、相手からの申し出を受けるという形で配慮を示していると考えられる。

5.3. 〈依頼相談〉

被依頼者が【承諾】をしたところから〈依頼相談〉に入ることになる。〈依頼相談〉では、両言語共、場面1と場面2では、【問題提示—解決案提示—同意】という連鎖を繰り返すことによって、会話参加者は依頼行為を遂行するために必要な事柄をお互いに解決していた。

【会話例 11】 依頼者：VF1 被依頼者：VF2

27 VF1:	↓Khi↓mô--Cỡ khoảng::khi mô mi đọc xong↓tau sang nhà mi lấy↑	いつ? 読み終わったらうちまで取りに行	問題提起
28 VF2:	(0.3)Ừ::, chắc↑cũng↓phải↑tuần sau.	うん、来週ぐらいかもしれない。	解決案提示
29 VF1:	↓Ừ↓=	うん。	同意
30 VF1:	=Mi vẫn ở chỗ cũ đúng không? =	まだ前のアパートに住んでいるね?	問題提起
31 VF1:	= [Ừ:::Rứa có chi vài bữa tở sang thì tau gọi điện trước hi.	それじゃ、行く前に前もって電話をかける	解決案提示
32 VF2:	[Ừ	うん	同意

また、被依頼者は【問題提起】をせずに直接【解決案申し出】を使用することもある。

【会話例 12】 依頼者：JM1 被依頼者：JM2

22 JM2:	=いいけどでも:, . h h s いつ読み終わるかな、後-えっ? (.) どうしよかな:	解決案申し出
23 JM1:	一週間くらいあったら読み終わる [(から:)	
24 JM2:	[あ, 全然急がなくてもいいか [ら:	負担軽減
	[あ, 本当?	受け入れ

25 JM1:	読み終わったら連絡してくれたら、ま-買ってr-たらあれ-また [一週間	解決案提示 同意
26 JM2:	[あ : : オッケオッケー. わかったわかった.	
27 JM1:	ありがとう.	感謝 受け入れ
28 JM2:	うん. はいは: : い.	

日本語では、この過程が終わると、依頼者は【感謝】や今後の二人の関係を継続することを示す【関係修復】といった連鎖で会話を終了させていた。それに対して、ベトナム語では、会話例 11 のように、場面 1 では、依頼者は【感謝】や今後の二人の関係を継続することを示す【関係修復】といった発話を行わないが、負担度が重い場面 2 においては、このようなやりとりで会話を終了させていた。

6. おわりに

以上、本稿では、日本語とベトナム語の依頼会話における談話構造と両言語の異同を、《依頼部》に注目して論じた。本稿で明らかになった結果を、ベトナムにおける日本語教育の現場へ応用する方法としては、機能シラバスの日本語教科書を開発する際、「依頼」の機能のところで活かすことが考えられる。また、会話指導にあたり、指導の効果を高められるようにモデル会話を暗記させるのみならず、そのモデル会話の談話構造に気づかせることで、依頼会話を構成する発話機能とその展開パターンを指導すべきである。指導上、これらのことに留意することによって、本稿の結果は、日本語母語話者とベトナム語母語話者が接触する場面における、異文化コミュニケーションの誤解や摩擦を最小限に抑えるのに有効になると考える。

参考文献

- 猪崎保子 (2000) 「接触場面における「依頼」のストラテジー : 日本人とフランス人日本語学習者の場合」『世界の日本語教育第 10 号』、pp. 129-145
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1993) 「依頼表現方略の分析と記述—待遇表現教育への応用に向けて」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』、pp. 52-69
- 徐孟鈴 (2006) 「依頼の終結部の考察—日本人・台湾人・台湾人上級学習の接触場面のロールプレイデータを比較して」『言葉と文化』第 7 号、pp. 67-84 名古屋大学、
- 徐孟鈴 (2007) 「依頼の先行部の考察—日本人・台湾人・台湾人上級学習の接触場面のロールプレイデータを比較して」『言葉と文化』第 8 号、pp. 219-238、名古屋大学
- 張穎 (2002) 「依頼会話の展開パターンに関する日中対照研究」『お茶の水大学言語文化と日本語教育』、第 28 号、pp. 8-14、お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』くろしお出版
- 三井久美子 (1997) 「『依頼』のフレームの明示性について」『日本語・日本文化研究』第 7 号、pp. 235-246、大阪外国語大学日本語講座
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版

Brown, P and Levinson, S. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge University Press